

# Seisei Times No.1

聖星タイムズ APRIL 2017



## 第1期生242名 Congratulations!



4・6 入学式

### 聖星高校入学式・希望を胸に新たな1ページ

4月6日、若木の成長を促すような春の雨に清められたこの日、本校体育館にて「浜松聖星」となり第二回目の入学式が行われました。新たな制服に身を纏った新入生242名が、「はい」と立ち上がると、会場は希望に満ちた空気に包まれました。

こうして当校の生徒となったばかりの新入生たちに、重信明利学校長は「泥かぶらの話」をしました。これは、①自分の顔を恥じない ②どんなときもにっこり笑う ③人の身になつて考える。この3つの教えを守り通した女の子が、本当に心の美しい人間に成長するというお話です。「当校で自分を輝かせ、さらに卒業後、人生の美しい花を咲かせ続けるために、皆さんも3つの教えを守り続けてほしい」と激励し「聖星第二期入学生としての誇りを持ってください」と話しました。続く北脇保之理事長は、人工知能

をはじめ技術開発が劇的に発達している一方、地球環境破壊や地域戦争など不安要素の多い現在、人生を生き抜く力を身に付けてほしい」と強調。そのために「心の教育」と「国際教養教育」に重点を置いている当校の教育方針を改めて説明しました。そして「これから上級生や教職員、学校関係者の皆さんと一緒に、聖星高校を創り上げていきましょう」と歓迎の言葉を贈りました。

来賓の方々からも「他校に無い経験を」「良き人と出逢い、目標を持って歩んでほしい」と多くの励ましの言葉を贈られた新入生。未来への希望に満ちた二同を代表し、手塚初菜さんが「初心を忘れず勉学や学校行事に励み、夢と目標を持って、恥じない人間に成長します」と力強い誓いの言葉を述べると、会場から大きな拍手が沸き起こりました。

新しい学校に入れたんだな  
と思った

部活を頑張ろうと思った

高校生になったとき  
実感が湧いてきた

意外と男子が多い  
ことに驚いた

### 新入生

入学式を終えての感想

吹奏楽部の演奏をきいて  
感動した

今後の学校生活が楽しみで  
わくわくしている

ミッションスクールの  
入学式が新鮮だった

校歌を覚えたいと思った



新校名の前で  
ハイ、チーズ!



写真撮影のために、正門前は長蛇の列。



♪吹奏楽部の  
庄巻の演奏♪

特別対談

# いま、なぜ国際教養教育か

## 早稲田大学国際教養学部・ピニングトン学部長に聞く〈後半〉

### 一般入試を改革し、AO入試に近い形式に

**ブラッドリー** 大学入試についてお聞きしたいのですが、近々、センター試験が別の試験に変わると言われています。早稲田大学は一般入試がほとんどだと思えますが、今後、受験形態は変わっていきますか。



いきなりと考えています。一般入試の場合でも、TOEFLが英検のスコアを提出すれば、点数を加えることになっています。将来的にどうするかは、文科省の出入りも見て、それが微妙な所ですが(笑)、私たちとしては一般入試もAO国内のエッセイ形式にしたいと考えています。

**ピニングトン** 当学部の場合は、一般入試はそう多くなくて200名くらい。1学年600名ですから、全体の3分の1くらいです。一方、AO国内が120名くらい、毎年取っています。それからAO国外、これは海外にいる日本人向けですね。AO国内は他の大学と違って、書類審査は行いますが、それと別に筆記試験、エッセイを三つ書くという内容です。理科系、社会学系、人文系の英文パッケージを出して、受験生はそれを読んで自分の意見を書きます。AO国内は、帰国子女や留学経験を持つ学生が有利ですね。一般入試を廃止しようとは思っていませんが、もっとAO入試に近い形にして

いきたいと思います。AO入試の場合でも、TOEFLが英検のスコアを提出すれば、点数を加えることになっています。将来的にどうするかは、文科省の出入りも見て、それが微妙な所ですが(笑)、私たちとしては一般入試もAO国内のエッセイ形式にしたいと考えています。

**ピニングトン** 英語だけでなく、他の科目にも言えるのは、もともと学生が自分の意見を主張できるように、自分で考え、自分はどう思うかをはっきりさせる。そういう教育が必要になってくる、ということですね。

**ブラッドリー** 私たち高校教師は、5年後にセンター試験が変わることを前提に、教え方をどう改革していくべきかを問題にしています。

**北脇** 国立大学は今のセンター試験がなくなっても、それに代わる試験ができて、別の縛りが出てくると思うのですが、私立大学は縛られる必要がないので、自由度が高いと思います。ただ、早稲田大学のように規模の大きい学校については、受験生の数が多いということにどう対処していくか、という問題があると思うんですね。国際教

**ピニングトン** 非常に難しい問題です。経営も含めていろいろな問題が絡んでいきます。文科省は従来の入試をやめてほしいと言っていますが、国立大学と私立大学の立場の違いを認めてくれないですね。受験者数は一つの問題です。今まで日本の教育の中で、学生の論文を評価するというところにあまり慣れていない。イギリスの教育は正反対で、最初からエッセイで評価されるという長い歴史があります。日本はまだそこまでいっていないと思います。が、少しずつ導入して、先生も少しずつ慣れていくべきでしょう。

### 対話型の学習により日本人の良さを伸ばす

**北脇** そこで、教養教育に関する私の疑問にも関係してくるんですが、日本の高校教育を見ると、先ほど申し上げたように、歴史であるとか化学であるとか、内容的には豊富なんです。しかし、もの考え方や論文の書き方とか、そういう教育が非常に弱くて、そ



れだけを取り出した授業がないんですね。文科省は今、しきりに新しい学力観ということで、思考力、判断力、表現力というものが大事だと言っているんですが、それを育てるためには、哲学や論理学、エッセイや論文の書き方、それだけを取り出した授業科目が必要なんじゃないかと思えます。その点が、欧米流のリベラルアーツとの違いじゃないでしょうか。

**ピニングトン** その通りだと思います。特定の科目を作るのか、それぞれの先生が普段の授業を通じて教えるのか、ですね。教授陣の間でも意見が分かれますが、私としては後者を望んでいます。また、それは分野によって事情が違ってきます。私たちのような教養学部は、教員もみんな専門家です。教育を研究している先生方ですから、先生も努力をして、学生は準備している人ばかりとは限りませんから、わかりやすく自分の分野を説明するよう心掛けています。ただ、そこでもた人数の問題がありますので、私たちはそれぞれの学年に講義科目とゼミ科目を置いていて、ゼミの数は他の学部より多いです。ゼミは必ず少数人数でやりますので、同じ先生が講義科目を教える場合と、ゼミで教える場合では、教え方がちよつと違います。ゼミが多いことで、参加型の授業が実施できます。

おもしろいことに、当学部の卒業生

### 勉強と部活

浜松聖星高等学校 校長 重信明利



高校生活というと「授業」、「部活」、「宿題」、「行事」、「ボランティア」、「友達づきあい」など、3年という短い間に実に様々なものが凝縮されているように感じますが、極めて単純化すると「勉強」と「部活」に集約されてしまうかとも思います。日中勉強して放課後部活をして帰る、そして夜また勉強する。毎日がこの繰り返しになっている高校生は少なからずいると思います。勉強も部活もその目的は合格か不合格か、勝利か敗北か、結局は「他人との競争」というように見えます。

「他人と比較して、他人が自分より優れていたとしても、それは恥ではない。しかし、去年の自分より今年の自分が優れていないのは立派な恥だ。」これはイギリスの探検家ラボックが言った言葉ですが、そこには「試験の合否や試合の勝敗は他人との力量の違いによって決するものだが、それはあくまでも指標であって、去年の自分と比べて今年の自分がどれだけ成長したかを確認するための単なるテストに過ぎない」という意味が含まれていると私は思います。つまり、大切なのはテストそのものではなく、「自分がどれだけ成長したか」という部分であり、それが高校生活における「勉強」や「部活」なのです。

他人との競争の結果よりも、日々の学習や練習に意味があり、それが目に見える結果に繋がらなくても、最も重要な「人間的成長」に結び付いたのだとわかるのは、悔し涙を流した日の数十年後になるかと思えます。

### 浜松聖星高校が目指すもの

学校法人 浜松海の星学院 理事長 北脇保之

この4月、浜松聖星高等学校は242名(うち男子は63名)の新入生を迎え、共学校としてのスタートを切りました。昨年度の新入生が151名だったことと比べると大幅な生徒数増となり、校内は新しい活気に満ちています。

今人類は、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)やビッグデータの活用により半世紀前には予想もできなかった力を手に入れる一方で、グローバルizmと反グローバルizmの対立、国際的なテロ、地球環境の変化など数々の深刻な問題に直面しています。日本についていえば、人口減少が将来に大きな影を落としています。

この時代に人間らしさを失わずよく生きていくためには、今こそイエス・キリストの説かれた「愛」を学び、身近な家庭や地域、職場から世界全体のことまですべて自らに関わるものと捉え、それらを少しでも良くしようと実践することが大切と考えます。そうした考えから、聖星高校は、61年前の浜松海の星高等学校建学時の校訓「真理を学び愛に生きよ 真理と愛こそ人生の光」を堅持しつつ、「隣人愛の実践により世界に貢献する人間の育成」を教育の目標に掲げ、時代と社会の要請に応える教育に取り組んでまいります。

高校生活3年間は、人生の中で特に貴重な時期です。生徒のみなさんには、授業を通じて自分の中に知的関心を育て、また、部活動や学校行事などで人間的な成長につながる経験を積む中で、人生の目標を見定めていってほしいと願っています。聖星高校は、常に生徒のみなさんとともにあります。



が就職した会社から言われるのは、国際教養学部は、非常にプレゼンテーションがうまい、自分の意見をしっかりと伝える力を持っている、ということ。それはやはり、1年生からゼミでそういうことをやってきているので、慣れているからですね。そういう方法で教えるというのもありだと思えます。

ただ、そうは言いながらも、私は日本の伝統的な教育が全部悪いとは思っていません。留学生が日本人の学生から学ぶこともあり、卒業式などで私がスピーチする時に強調していますが、日本の大学にある国際教養学部です。いろいろな意味で日本の強い所を活かす。日本人はあの意味、対話に強いと思います。自分の意見ばかり主張して、相手をねじ伏せようとする態度はとりませんので、大いに可能性があると思います。これからの日本のために、教育を変えていかなければいけないでしょう。

北脇 もう少しアクティブになつた方がいいということですね。

ビングトン アクティブになれば授業が楽しくなる。日本人の学生は非常に我慢強いですが、これは問題点でもあって、我慢強いが故に、なかなか授

業が改善されないというデメリットもあります。これに対し当学部の非常に良い点は、授業がすべて選択科目となつていて、学生は満足できない授業には行く必要がありません。なので、とてもいい循環ができています。全部が必修科目だと、先生も生徒の情熱が感じられないですよ。

北脇 今までの日本の教育を考えると、テストのためにたくさん知識を覚えること、テストの知識として詰め込むんですが、テストが終わると忘れてしまいます。1000のことを詰め込んで、全部忘れて0になつてしまふことに比べたら、10しか覚えられなかったとしても、テストが終わってもずっと残つていく授業なら、そっちの方がいいんじゃないかと思えます。

ビングトン その通りです。自分がコミットした授業だと、自分が成長していると感じられるので、楽しくなつてくると思えますね。黙って我慢して聞く授業では、なかなか楽しくならないでしょう。

**最後まで頑張れる強い精神力が必要**



北脇 それは重要な指摘ですね。ぜひ、参考にさせていただきたいと思えます。

北脇 私たちの学校の母体になつているのは、スペイン系の女子修道会なんです。スペインと縁がありますので、いざれスペイン語を学校で教えられるようになったらいいな、と思つています。

ビングトン それはぜひ実現してほしいですね。

北脇 最後に、国際教養学部から見て、高校教育に望むことや、こういう生徒に入ってきてほしいという希望をお聞かせください。

ビングトン 正直に言いますと、日本人の学生は留学の経験がなければ、高校時代に英語が校内1番だったとしても、当学部では周りに英語をもつと流暢に話す日本人がたくさんいるので、落ち込んでしまいます。それでも、がっかりすることはないんです。4年あれば、周りと同じレベルまでいきます。特に、留学して帰ってくると差

は感じなくなりません。ただ、大学1年生の時に目いっぱい頑張れる力は必要。それがないと、差を感じなくなる所まで、なかなか到達できません。推薦の場合で私たちが求めているのは、そうした強さです。がっかりしてすぐにあきらめないで、最後まで頑張れる人。そういう学生を育てていただければと思つています。

今までは英語だけでは足りない。もう一言語くらいはできるようにしてほしいですね。それは大学入試にも就職にも、大きなアドバンテージとなります。アメリカのハーバード大学などに当学部の卒業生が入学しています。が、なぜ入れるかと言うと、二つ以上の外国語を身に付けているからです。将来的には英語中心ではなく、マルチリンガル(多言語)という方針でやっていきたいですね。高校でも英語以外に、もう一つ外国語を教えていただければ、私たちとしてもありがたいです。

頑張れるというのは、例えば、先ほどから申し上げている参加型の授業や留学と関係してきます。高校時代に留学している学生は、その分、成長しています。精神的にも強くなつていきます。大学に来て英語力の差を感じても、そんなにがっかりすることはありませぬ。頑張つて、自分もそうなりたいと思えばいいのです。

北脇 私たちの学校には、海外教育の長い歴史があります。早い時期から留学制度を完備し、現在も半年から1年間、カナダやイギリスに生徒を留学させています。来年度からはオーストラリアへの1学期間のチーム留学も行う予定で、こうした留学やアクティブ・ラーニングなどを通して、精神的な強さを身に付けられると思つています。

ビングトン 強さが身に付くだけではなく、勉強する楽しさも実感できると思っています。その両方があれば、問題ないですね。当学部で十分やっていけると思っています。

北脇 大変、心強いお言葉です。私たちも、レベルの高い国際教養教育を実施していきたいと念じておりますので、今後も折りに触れてご指導いただければありがたいと思つています。

ビングトン わかりました。お役に立てることがあれば、いつでも声をかけてください。

北脇 本日はありがとうございました。

(取材日: 2016年10月20日)

**ブラッドリー先生の間違いやすい日常英会話 ★Lesson1★**

Oh Mary, you look different.  
(ねえ、メアリー。なんかいつもと違うね)

Yeah, I got a haircut.  
(うん、髪を切ったんだ)

OK! GOOD!

それでは  
Once more!

Oh Mary, you look different.  
(ねえ、メアリー。なんかいつもと違うね)

I cut my hair.

NO!

「I cut my hair.」は自分で髪を切ったという意味  
「私が自分で髪を切った」となります。  
もちろん、自分で切ったらその表現がいいけど、美容院で切った場合は「I got a haircut.」や「I had my hair cut.」と言います!



3・1 卒業式  
海の星で学んだ心は永遠に…



3月1日浜松海の星高等学校として最後の卒業式が当校体育館で行われました。神聖な儀式を証明する青いストラ(肩から掛ける帯)を身に着けた卒業生は136名。その一人ひとりの表情は、充実した3年間を物語るように、凛とした成長の証を見せていました。

父兄の方々や在校生、教職員らが温かく見守る会場は、強い絆を思わせる一体感。校歌を斉唱し友と声を合わせれば、3年間勉強に勤しんだこと、部活や学校行事に取り組んだこと、心を磨き続けた日々を思い返します。中には胸いつぱいに込み上げた想いから涙する姿も見られました。

そんな卒業生たちに北脇保之理事長は「60年の海の星の歴史のアンカーとして、良い評価を維持し、次に繋ぐ



わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

(IIコリント4章18節)

という大切な役割をしっかりと果たしてくれました」と感謝し、「卒業後も気軽に母校に立ち寄り、母校の姿を見て応援してほしい」と話しました。そして結びに「この3年間学んだ、見えないものに目を注ぎ、永遠の栄光を求める生き方を大切にしてください」と聖書の一節を贈りました。



いつでも皆さんを待っています。

Campus Calendar  
キャンパスカレンダー

- 4月**  
6日(木) 入学式  
11日(火) 創立記念式典  
19日(水) 遠足  
22日(土) 進路説明会(3年)
- 5月**  
30日(火) マリア祭
- 6月**  
9日(金) ベリタスプラザ  
(文化祭) [校内発表]  
10日(土) ベリタスプラザ  
(文化祭) [一般公開]  
20日(火) 薬学講座  
28日(水) 授業参観・  
英語スピーチコンテスト

- 7月**  
1日(土) 1年生保護者対象  
進路講演会  
14日(金) スポーツデー  
21日(金) アメリカ海外研修  
出発(～8/4(金)) [希望者]
- 8月**  
6日(日) 夏のオープンスクール  
9日(水) オーストラリア海外研修  
(～20(日)) [希望者]  
26日(土) 夏のオープンスクール
- 9月**  
26日(火) 体育祭



夏のオープンスクール  
8/6日, 8/26土

場所 浜松聖星高校  
対象 中学生とその保護者



第14回  
“成人を祝う集い”  
が和やかに開催されました

昨年9月より、当番回生第27回生と今回成人となる第57回生クラス代表も加わり「成人を祝う集い」の準備を、月1回の会議を行い進めてまいりました。

当日、平成29年1月8日(日)はあいにくの雨天でしたが、新成人の86名が参加しました。57回生作成のBGMで式典が始まりました。神父様から祝福を、恩師からは温かい励ましのことがありました。

新成人から寄せられた寄付金の9万円は、1月18日「浜松発達医療総合福祉センター」友愛のさと「利用者のみなさまの活動資金」としてお届けしましたのでご報告いたします。ここに、感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

つなぐ  
第24回 浜松海の星高等学校同窓会  
定期総会

5月21日(日) 総会12:00～(受付11:00～)  
会場: グランドホテル浜松

- 講演: 講師 評論家 金美鈴氏  
演題 『今日より幸せな明日のために』
- お問合せ: 実行委員会(携帯)080-4848-3898(15回生 高井)  
学校事務局 TEL 053-454-5376 同窓会事務局 FAX 053-450-8731

